

デジタル社会における データとトラストを考える

第1回 個人情報・プライバシーをめぐるトラスト (7/27終了)
第2回 地域と育むデータとトラスト (今回)
第3回 国際的なデータガバナンスとトラスト (2026年12月予定)

社会のデジタル化が世界規模で進み、あらゆる場面において浸透する中、データは人や社会の関係を形づくる基盤になりました。データは社会課題の解決や、新たな価値の創出を支える重要な資源です。データを活かす社会を実現するためには、技術に加えて、人・組織・サービスに対するトラスト・信頼をいかに育むことができるかが問われています。本イベントでは3回にわたり、個人・地域・国という3つの視点から、データとトラストの関係を考えます。

第2回

地域と育むデータとトラスト 行政での活用は進む。信頼をどう築くか

人口減少や人手不足が進むなか、地域課題の解決や行政サービスの向上に向けて、行政におけるデータやAIの活用への期待は高まっています。一方で、国民・住民の理解や納得が伴わなければ、活用を進めることはできません。データを活かす社会を実現するために、地域におけるトラスト・信頼はどのように築くことができるのでしょうか。国と自治体の先進事例と、研究開発の知見を手がかりに、地域におけるデータとトラストを考えます。

プログラム (予定)

開会挨拶・趣旨説明	湯浅 壱道 (明治大学 専任教授／プログラム総括)
政府におけるガバメントAI 源内の取組について	山口 真吾 (デジタル庁 戦略・組織グループ 参事官)
神戸市におけるデータ利活用の取組	大瀧 実 (神戸市企画調整局長(データ利活用担当))
地方自治体におけるトラスト形成について	木村 泰知 (小樽商科大学 教授)
社会技術としてのトラスト・地域社会におけるデータ活用を公共的価値へどうつなぐかー	黒河 昭雄 (神奈川県立保健福祉大学 講師)
パネルディスカッション	

日時

2026年 **9月16日** (水)
14:00～17:00

参加費無料・要事前申込み

形態

- ・ベルサール八重洲 RoomB+C
- ・オンライン配信(Zoom)

お申込み

9月11日正午まで受付



https://form2.jst.go.jp/s/digest_symposium_20260916_01

主催



国立研究開発法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター (RISTEX) の「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム 情報社会における社会的側面からのトラスト形成 (通称 デジタル ソーシャルトラスト)」では、情報社会の進展が生む課題に対する社会的側面からのトラスト形成に向け、11の研究開発プロジェクトを推進しています。本イベントは、RISTEXにおいて研究データマネジメントに取り組むアドバイザーボードと連携した企画となります。